

# 羅針盤

常陽アークだより

政府は「働き方改革」を推進し、女性やシニアなどを含め、皆が生き生きと働ける社会を目指している。6月に当センターが行った県内企業へのアンケートによると、長時間労働の是正や女性活躍の促進などに「取り組んでいる」と回答した企業の割合は、大企業では5割を占めるものの、小企業では2割弱にとどまっている。

ただし、残り8割の小企業には「以前から職場改善に努

常陽地域研究センター研究員

## 茂木 薫子

### 労働意欲高める改革

めており、あらためて取り組みではない」との趣旨で回答した、先進的な企業がいた可能性も否定できない。県内には既に生き生きと働ける職場づくり成功している中小企業もある。その一つが「日

本一社員が喜ぶおしぼり会」と回答し、一人一人が仕

事と生活のバランスをうまく取れる環境にあることが分かる。そんな同社にも、20年以上前には離職率の高い時代があった。おしぼりを顧客の人生にそっと「よりそっ」存在と捉えていた社長と、実際にお

しぼりを扱う社員とで、思いに温度差があったのである。顧客に寄り添うためには、まず社員が喜んで働ける会社でなくてはならないと考えた社長は、自ら研究を重ね、社員と意思疎通を図れるよう企業体制を見直していった。

その取り組みの一つに、整理・整頓・清掃を進める「3S活動」から発展した、社員

社」を掲げ、おしぼりのレンタル業などを営むヴィオーラ（水戸市、藤本昌宏社長）だ。

同社は、約170人いる社員の7割を女性が、2割を障がい者が占めている。一般に、女性は結婚や出産、育児など

そんな同社にも、20年以上前には離職率の高い時代があった。おしぼりを顧客の人生にそっと「よりそっ」存在と捉えていた社長と、実際にお

る会社のために働く、という好循環が生まれていった。その結果、社員のやりがいが高まるだけでなく、業況にも好影響を与えている。

例えば、社員の発案で今治タオルを使用した最高級おしぼりを商品化した同社は、他社との明確な差別化が図れ、都内などへの販路拡大の兆しも見え始めている。

（第4土曜掲載）